資料 7

本市の生物多様性の地域的特徴と課題について

1．生物

概要	生物多様性における肯定的側面	生物多様性における課題
市街化が進む一方、都立公園や崖線などまとまった緑地が生物の避難地として機能しており、希少種を含む多様な植物、昆虫類、鳥類、哺乳類等が確認されている。 多摩川周辺においては、河川環境特有の植物や鳥類等が確認されており、都市部にありながら一定の生物的豊かさを有している。	都立公園や公有緑地、多摩川など、恒久的に維持されていくことが見込まれる自然環境が多数存在し、生物的豊かさを維持した都市の発展が期待される。 身近な環境における生物の存在は、そこに住む人々の自然環境への認識や保全意識の醸成にとって大変有益な存在となり、これら生物とその生息環境を活用した普及啓発事業を実施していく。	近年は外来生物の増加が顕著となっており、在来生物の生息環境を脅かしている。市民、団体、研究機関、行政が連携し、継続的な防除の取組を進める必要がある。 生物の保全については特定の希少種などに焦点が集中した取組となることが多いが、生物多様性の観点からは、地域固有の生態系全体を保全する必要があることについて、理解の促進を図る必要がある。 また、現在ある環境の保全だけなく、一度失われた地域の自然環境や生物の再生、回復を目指した取組も検討していく必要がある。

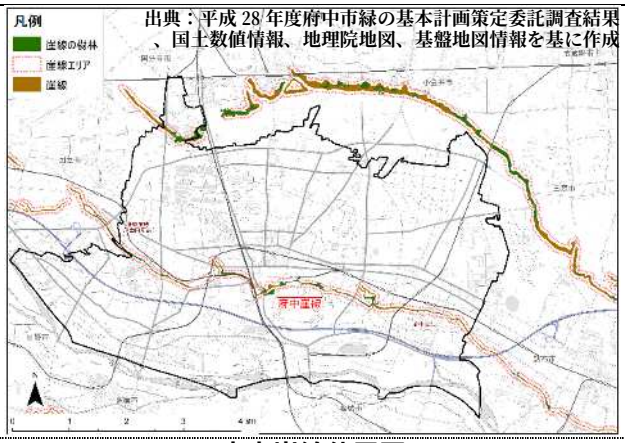
水辺の野鳥（アオサギ）

水辺の植物（オギ）

浅間山公園のムサシノキスゲ

2．府中崖線

概要	生物多様性における肯定的側面	生物多様性における課題
市の東西を貫く多摩川の浸食により形成された段丘崖であり、地域では「ハケ」と呼称されている。 地域本来の自然樹林や湧水が残されており、緑の基本計画では多摩川とともに本市の「水と緑の軸」と位置づけている。	西府町周辺の崖線にはまとまった自然樹林が残され、希少な植物も確認されている。 ハケ下の用水は通年通水が実現しており、水辺環境を伴った生物多様性の豊かなエリアとなっている。 調査・保全活動が継続的に実施され、今後生物多様性保全に配慮した緑地の維持管理の導入を検討している。	土地利用の転換などにより、樹林の減少、分断・孤立化が進んでいる。また、ハケ上の舗装化の進行などにより、湧水も枯渇傾向にある。 残された樹林、緑地を維持するため、東京都の「緑確保の総合的な方針」における確保候補地に位置付け 、都市緑地法などに基づく制度を活用した保全を検討している。

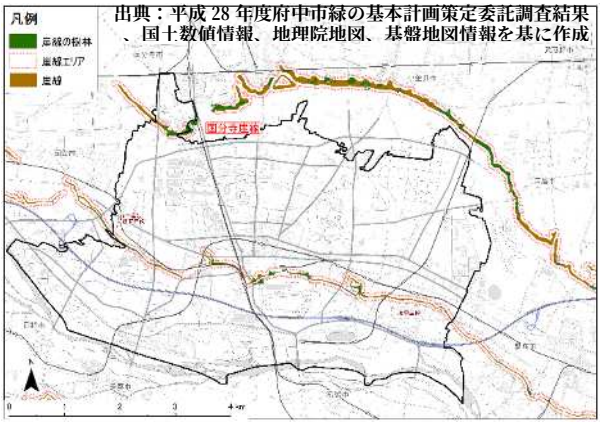


府中崖線位置図

府中崖線景観形成推進地区

3．国分寺崖線

概要	生物多様性における肯定的側面	生物多様性における課題
市北西端の突出部の東西約 500m に広がる段丘崖であり、市立武蔵台公園と都立病院が立地する。 一帯は武蔵台緑地と呼称する緑豊かなエリアとなっている。	かつて農用林としての利用されてきた雑木林と、崖線に残された自然林としての特徴を併せ持ち、地域本来の植生を残す、貴重な緑地となっており、多様な生物に生息環境を提供している。 市の自然環境調査員会議や地元市民団体による調査・保全活動が継続的に実施され、近年は植生管理に関するガイドラインが作成され、科学的知見に基づく効果的な保全活動の展開を検討している。	地域本来の植生をふまえた管理を長年実施してこなかった結果、樹林の藪化、常緑樹の増加などが進行し、生物多様性の低下が危惧される状況となっている。 近年はナラ枯れ病が蔓延し、雑木林の代表樹種であるコナラやクヌギの成木の大部分が枯死または伐採により失われている。 積極的な保全活動の速やかな展開が求められるが、一方で保全活動の主体となる市民の高齢化が進んでおり、担い手の確保や行政との役割の整理などが課題となっている。



国分寺崖線位置図

国分寺崖線に位置する武蔵台公園

4．公園・緑地（崖線緑地、都立公園を除く）

概要	生物多様性における肯定的側面	生物多様性における課題
総合公園の「府中市郷土の森公園」を始め、市内に 274 か所、総面積約 180ha の都市公園が設置されており、26 市では八王子市、町田市、多摩市に次ぐ面積となっている。	多数の公園が設置されており、未舗装の土壌や植栽植物などは生物の生育環境としても一定の機能を果たしている。	基本的には利用者の利便性や安全性の維持、向上を図る管理が中心となり、生物多様性の保全に配慮した取組はなされてこなかったが、近年一部緑地において在来植物の保全を目的とした選択的な除草作業を取り入れるなど、管理方針の見直しも図っている。

公園緑地位置図

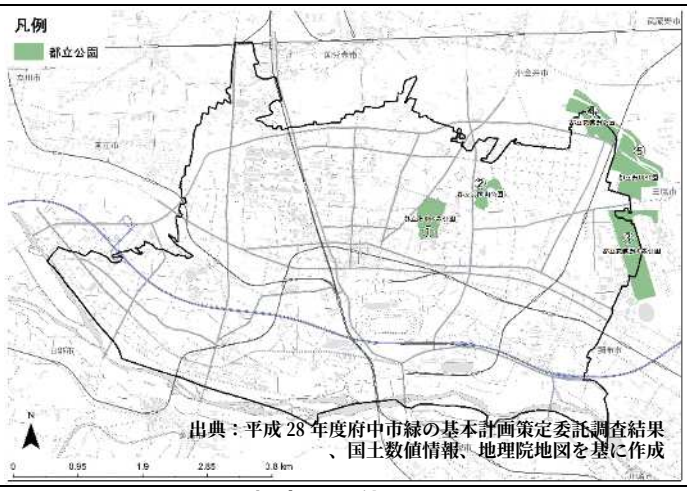
図番号	種別	名称	所在地	現況面積m2
①	緑地	府中崖線西府緑地	西府町	7,618
②	緑地	四谷下堰緑地	四谷	7,876
③	総合公園	郷土の森公園	是政	338,655
④	街区公園	分梅公園	分梅町	6,877
⑤	運動公園	寿中央公園	寿　町	52,235
⑥	街区公園	本宿町公園	本宿町	6,519
⑦	運動公園	多摩川緑地		259,549
⑧	地区公園	武蔵台公園	武蔵台	46,835
⑨	地区公園	小柳公園	小柳町	51,152
⑩	近隣公園	押立公園	押立町	15,000
⑪	近隣公園	矢崎町防災公園	矢崎町	7,117
⑫	近隣公園	美好町公園	美好町	5,785
⑬	近隣公園	西府緑地	四　谷	17,833
⑭	近隣公園	府中公園	府中町	22,502
⑮	近隣公園	中河原公園	住吉町	10,083
⑯	近隣公園	四谷第４公園	四　谷	9,745
⑰	近隣公園	平和の森公園	浅間町	10,000
⑱	近隣公園	すずかけ公園	日鋼町	9,101
⑲	近隣公園	四谷さくら公園	四谷	5,494

出典：平成 28 年度府中市緑の基本計画策定委託調査結果

主な公園・緑地（5000 ㎡以上）

5．都立公園

概要	生物多様性における肯定的側面	生物多様性における課題
都立公園 4 カ所（武蔵野公園・浅間山公園・府中の森公園・武蔵野の森公園）が市内に立地し、総面積は約 48ha（市内のみ）である。 また、都立野川公園が市北東部に隣接している。	国分寺崖線や野川に沿って設置される武蔵野公園、多摩の台地が古多摩川などに削られ残った丘である浅間山公園など様々な特色を持つ公園が整備されており、多様な生物の生育環境となっている。 自然環境保全に強みを持つ NPO を主体とした指定管理者を中心に、近隣の市民団体など多様な主体が連携し、それぞれの公園において、普及啓発活動や生物の保全活動が活発に行われている。	所在地の自治体にとっては環境行政上極めて重要な自然環境である一方、管理の主体は東京都であり、保全方針等の立案に市が直接的な関わりを持つものではない。 本市の生物多様性地域戦略にとっては重要な拠点であり、東京都や指定管理者などとの連携を密にし、保全活動を行っていく必要がある。



都立公園位置図

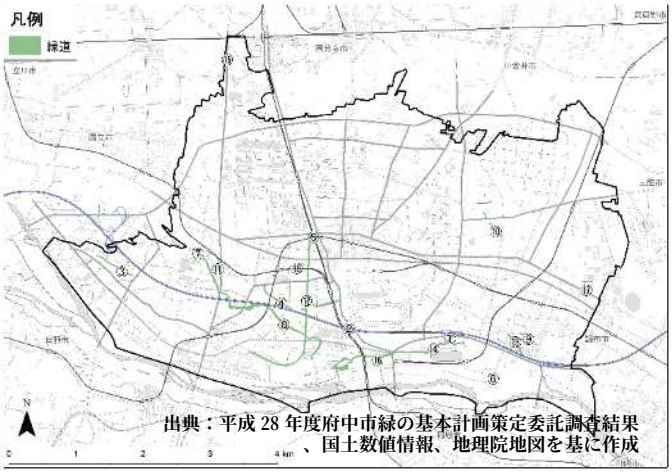
図番号	名称	面積（ha）
①	都立府中の森公園	17.1
②	都立浅間山公園	8.3
③	都立武蔵野の森公園	34.7
④	都立武蔵野公園	23.9
⑤	都立野川公園	40.3

出典：平成 28 年度府中市緑の基本計画策定委託調査結果

都立公園面積

6．緑道

概要	生物多様性における肯定的側面	生物多様性における課題
歩行者や自転車利用者が植栽された樹木などの緑を楽しみながら移動することができる舗装路である。 市内には 17 の緑道が設置されており、植栽されている植物は低中木が大半だが、一部エリアでは高木が多く植樹された場所がある。 市川緑道や新田川緑道など府中用水の流路に整備された緑道では、水路や水辺が併設されている。	連続した植栽が設置されており、生物の生息空間や通り道（コリドー）として機能することが期待される。	大部分が人の通行を前提とした舗装路となっており、生物の利用に配慮した仕様とは言い難い。 また、植栽植物の多くは地域に本来生育するものではなく、生物多様性の観点からは改善が望まれる。



緑道位置図

図番号	名称	所在地	現況面積㎡	備考
①	是政緑道	是　政	672	延長93.9m
②	矢崎緑道	矢崎町	332	延長89.4m
③	四谷緑道	四　谷	3,023	延長707.8m
④	雑田堀緑道	本町～分梅町	3,213	
⑤	寿町緑道	寿　町	469	H17.3.11開設
⑥	やなぎはら緑道	小柳町	691	延長134.4m
⑦	市川緑道	日新町	3,796	延長312.2m
⑧	新田川緑道	是政～分梅町	43,814	延長2,826.7m
⑨	三御殿堀緑道	押立町	1,206	延長163.0m
⑩	野溝緑道	若松町	1,105	延長439.7m
⑪	府中段丘本宿緑道	本宿町	377	延長90.0m
⑫	下河原緑道	南町～宮西町	22,484	延長3,513.5m
⑬	押立緑道	押立町	4,643	
⑭	二ケ村緑道	是政	30,378	
⑮	むさし台緑道	武蔵台	1,980	延長154.0m 都計道予定地を含む
⑯	二ケ村緑道	是政	30,378	
⑰	朝日町緑道	朝日町	1,279	
⑱	片町緑道	片町	911	

出典：平成 28 年度府中市緑の基本計画策定委託調査結果

緑道現況面積等

7．寺社林（民有緑地）

概要	生物多様性における肯定的側面	生物多様性における課題
市内には歴史ある寺社が多く、それらに付属する樹林や樹木が数多く維持されている。 また、屋敷林などを持つ旧来からの民家も残っており、市内の緑の豊かさを形づくる主要な役割を果たしている。	寺社林は、文化・景観においても重要な性質であることから、今後も保全されていく可能性が高い。 古くより残されてきた樹木・樹林がある所もあり、生物の拠り所となる緑環境としては大変貴重な存在である。	民有樹木については、相続や管理の負担増大などにより樹木の維持が困難になるケースが増えることが想定され、樹木の減少が懸念される。 樹木の保全のため、樹木所有者に対する支援施策などについて検討していく必要がある。

寺社林位置図

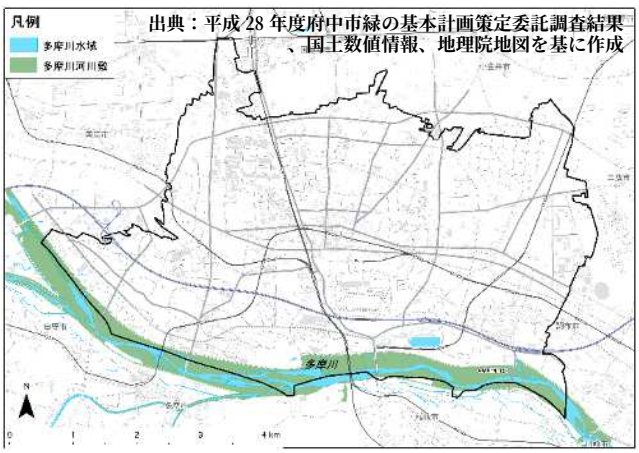
図番号	名称	面積㎡
①	稲荷大明神	1,450
②	神明社	1,300
③	小野神社	1,270
④	カトリック府中納骨堂	13,350
⑤	慈恵院	11,880
⑥	高安寺	22,940
⑦	妙光院	11,330
⑧	安養寺	11,270
⑨	東郷寺	31,400

出典：平成 28 年度府中市緑の基本計画策定委託調査結果

主な寺社林

8．多摩川（河川敷）

概要	生物多様性における肯定的側面	生物多様性における課題
本市南部の市境は全面が多摩川となっており、水辺のほか草地・低木地・砂礫地など、広大で多様な河川環境が存在する。	河川敷や堤防には、レンリソウやカワラナデシコなど希少植物を含む豊かな植物群落が形成されている。 また、広大な河川敷は、昆虫類・鳥類・哺乳類など多様な動物に生息空間を提供している。 アユなど多摩川を遡上・降下して上下流の多様な環境を利用して生息している種が存在し、上流・下流へ広域につながるエコロジカル・ネットワークの一部として、重要な自然環境である。	近年河川整備の影響により、氾濫する頻度が減ったことから、土砂が滞留し、河原が減ってきている。このため河川敷が草地化、樹林化し、恩恵を受ける生き物が存在する一方、環境の変化に影響される生き物も存在する。 近年の豪雨災害の影響により、治水対策が優先的に実施される中で、地域の生物多様性の保全について河川管理者である国と協議し、連携を図って取り組んでいく必要がある。



位置図

出典：府中市 HP

多摩川

9．用水

概要	生物多様性における肯定的側面	生物多様性における課題
多摩川沿いの沖積低地における稲作のため、古くから整備された農業用水が存在し現在も使用されている。 水は多摩川や府中崖線からの湧水から取水している。 水路の大部分が暗渠化されており、農閑期には水量が減り、通水は一部のみとなる。	通水期には水田とともに水辺環境を形成し、特有の生物空間を生み出している。 また、取水元の多摩川とのつながりから生物の移動経路としても機能していると考えられる。	環境用水として農閑期も含めた通年通水を目指し整備を行っているが、流水の確保に技術的な課題が多く一部のみの実施となっている。現状では生物の恒久的な生息空間としては機能していない状況となっている。 また、水路が暗渠化、コンクリート化されている箇所が大半であり、生物の生息空間としては必ずしも好ましい構造とはなっていない。

用水位置図

府中用水

10.湧水

概要	生物多様性における肯定的側面	生物多様性における課題
府中崖線の「西府町湧水」、「瀧神社湧水」が代表的な湧水であり、最も湧出量の多い「西府町湧水」は「東京の名湧水」に選出されている。 浅間山には「水手洗神社湧水」がある。	崖線の湧水は水辺環境を伴う緑地を生み出し、一帯に豊かな生物多様性を育む環境を創出するとともに、都市の中においてやすらぎを与える自然景観を生み出している。 湧水は夏でも比較的涼しいため、高温に弱い生物も生息しやすい。	都市化による建物・舗装の増加や緑地の減少により地下への雨水浸透量が減少し、湧水量の減少や枯渇が進んでいる。 透水性舗装などによる道路整備や雨水浸透施設の設置に関する取組が検討されている。

出典：東京都環境局（東京の名湧水 57 選）、府中市 HP

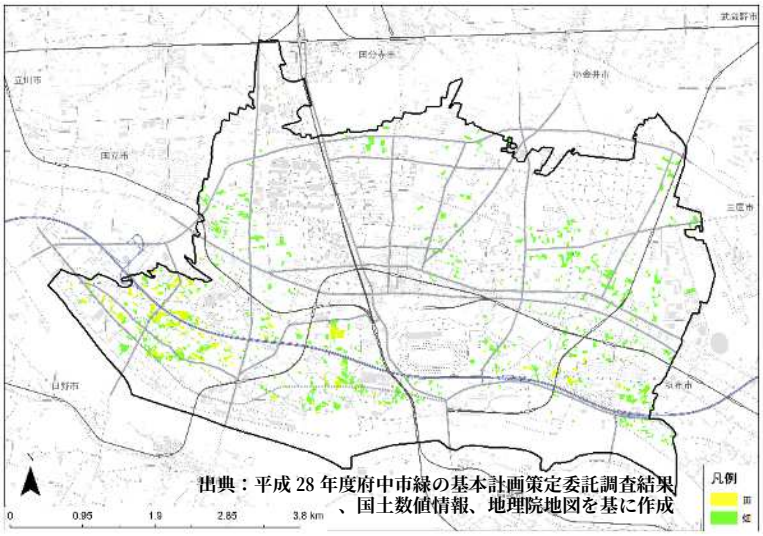
湧水位置図

出典：府中の環境　令和元年度 湧水調査結果

湧水量

11.農地

概要	生物多様性における肯定的側面	生物多様性における課題
市内の農地は 14,555a、うち田が 3,861a、畑が 10,676a となっている。（令和 2 年産業振興課） 経営耕地としては、田は 26 市の中で八王子市に次ぐ面積となっており（平成 27 年農林業センサス）、市街化の進む多摩地域の中にあって多くの水田を残している。	地域の生態系を育む重要な基盤となる農地が都市部にあって比較的多く残されている。 特に多摩川沿いの沖積低地には市街化が進行しながらも水田が残されており、付随する農業用水とともに、多様な生物の生息環境を提供する水辺環境を創出している。	相続等により農地は年々減少している。特に水田については平成 28 年度時点で 5,398a あったものが、わずか 4 年で 30%近い減少となっている。 農地保全のための農業者支援と後継者育成が必要である。



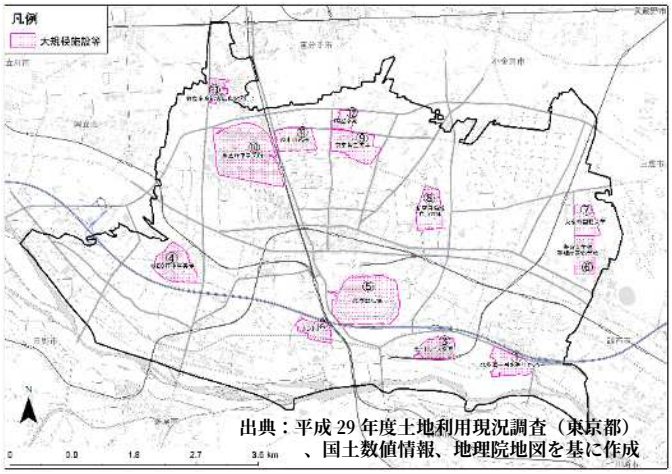
農地分布図

出典：令和 2 年版府中市統計書

耕地面積

12.大規模事業者

概要	生物多様性における肯定的側面	生物多様性における課題
市内には東芝、サントリー、ＮＥＣなどの大規模な事業所が立地している。	各事業所ではＣＳＲ活動など、環境保全に関する取組が行われている。 【東芝】 府中事業所の事業活動においては再生可能エネルギーの積極利用など、様々な環境負荷低減の取組を実施するほか、CSR 活動として植林や希少種の保護活動、府中事業所構内での生物調査を通じた環境教育プログラムなどを実施している。 【サントリー】 水や農作物などの自然資源を経営基盤とする企業として、水源林の整備や森と水に関する環境教育教育プログラムの実施など自然環境保護に関する CSR 活動と事業活動全般における環境負荷低減の取り組みを実施している。 【ＮＥＣ】 事業活動や従業員の生活が生態系に及ぼす影響をの低減活動とともに、社員んによる浅間山公園におけるムサシノキスゲ保全活動など希少種の保護活動等の CSR 活動を実施している。	経営活動に伴い、大量のエネルギー消費や温室効果ガスの産出など環境負荷を生み出す側面を有している。地域市民の影響のみならず、地球規模での環境負荷の低減を視野に入れた事業活動のさらなる推進を求めていく必要がある。 一方で、環境負荷の大きい製造業の特性から環境保全に関わる豊富な知見やノウハウ、施設等を有しており、これらの資源を活用した事業者、行政、市民団体等の連携による自然環境保全に関する取組を推進していく体制作りが求められる。



大規模施設位置図

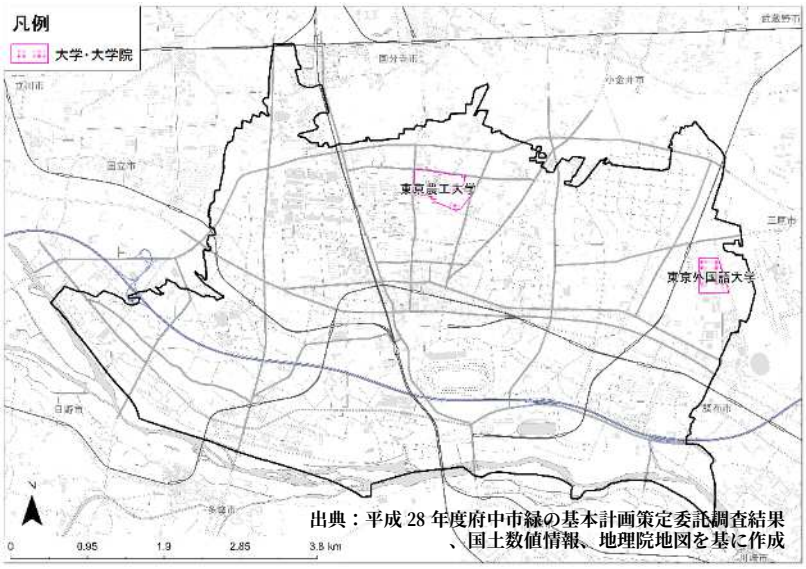
図番号	名称	敷地面積（ha）
①	北多摩一号水再生センター	16.8
②	サントリー	11.9
③	ボートレース多摩川	13.7
④	NEC府中事業場	24.2
⑤	東京競馬場	59.5
⑥	警察大学校（警視庁警察学校）	15.8
⑦	東京外国語大学	13.3
⑧	航空自衛隊府中基地	19.4
⑨	東京農工大学	23.9
⑩	東芝府中事業所	67.3
⑪	府中刑務所	17.4
⑫	明星学苑	7.6
⑬	都立多摩総合医療センター	7.0

出典：平成 29 年度土地利用現況調査（東京都）を基に作成

大規模施設一覧

13.大学・大学院

概要	生物多様性における肯定的側面	生物多様性における課題
国内有数の科学技術系国立大学である東京農工大学と、同じく国立大学の東京外国語大学が市内に立地する。	東京農工大学は、国内屈指の自然科学の知見を有するとともに、官民との積極的な連携推進に実績を残しており、同学が市内に立地していることのメリットは大きい。府中市をフィールドとした研究も盛んに実施されており、市内の生物多様性情報の蓄積が図られている。 行政においても、生物調査や市民への普及啓発活動、植生保全活動など様々な取組において協力を得ている。	東京農工大学とのさらなる連携の推進を図る。 また、東京外国語大学については科学技術系の大学ではないが、優秀な学生が国内外から集まる国内有数の大学であり、環境保全をテーマとする活動に関心のある学生との協働など、連携・協力関係の構築が望まれる。



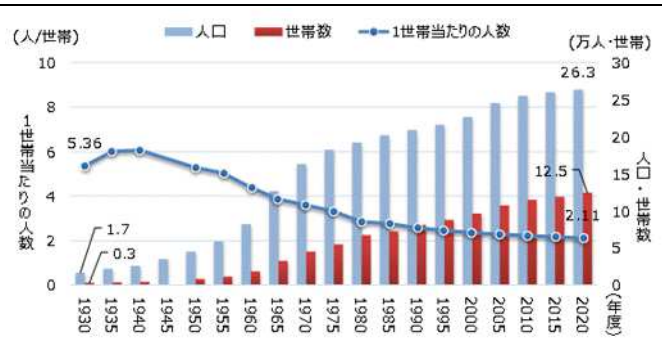
大学・大学院位置図

東京農工大学

東京外国語大学

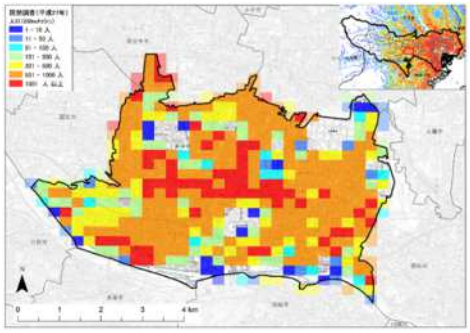
14.市民（在住者）・在勤者

概要	生物多様性における肯定的側面	生物多様性における課題
人口は約 263,499 人（約 12 万 4 千世帯）が居住しており、多摩地域では八王子市、町田市に次ぐ規模となっている。6 歳～14 歳までの人口比率は 8.1%で都内平均 6.7%、26 市平均 7.6%を上回る。※平成 27 年度国勢調査 また、市内には約 7,300 の事業所に 10 万人以上の従業員が就労しており、八王子市、町田市、立川市に次ぐ規模となっている。	人口の平均年齢は 43.3 才（平成 27 年）で全国（47.2 才）及び東京都（45.1 才）の平均より若い世代が多く、持続的な環境保全活動の有力な担い手となることが期待される。 また、環境教育の主要なターゲットとなる児童の数も比較的多い。	26 万を超える人口はマンパワーとなり得る反面、大きな環境負荷の発生源ともなり得る。都民の食糧自給率は１％（カロリーベース）とわずかであり、市民の食生活やエネルギー利用は他の地域の恵みに強く依存している。生物多様性に関する認知や自然環境保全に関する実行状況については改善の余地があり、市民一人一人が自身の行動が自然環境に与える影響について認識し、行動変容に取り組んでいく必要がある。



人口・世帯数の推移

出典：令和 2 年度府中市統計書



府中市の人口分布図

出典：平成 27 年国勢調査に関する地域メッシュ統計

15.環境系市民団体

概要	生物多様性における肯定的側面	生物多様性における課題
様々な団体が市内において環境保全活動等を展開している。 （例）※五十音順 ・環境まちづくり NPO エコメッセ府中 ・かんきょう塾ネット ・浅間山自然保護会 ・多摩川の自然に親しむ会 ・NPO 法人バードリサーチ ・NPO 法人府中かんきょう市民の会 ・一般社団法人府中ＰＦＳ ・府中野鳥クラブ ・武蔵台緑地保全ボランティア	様々なテーマや強みを持つ多くの団体が各地で熱心な活動を主体的に実施するとともに、行政や大学等とも連携し、市内の生物多様性の保全に大きく貢献している。	行政・団体間、また各団体間においても、将来の府中の生物環境をどのようなものにしていくか、共通認識と協力連携関係を育む仕組みづくりが求められる。 構成メンバーの高齢化が進み、体制的な問題を抱えた団体もあり、将来の担い手の確保について課題を有している。

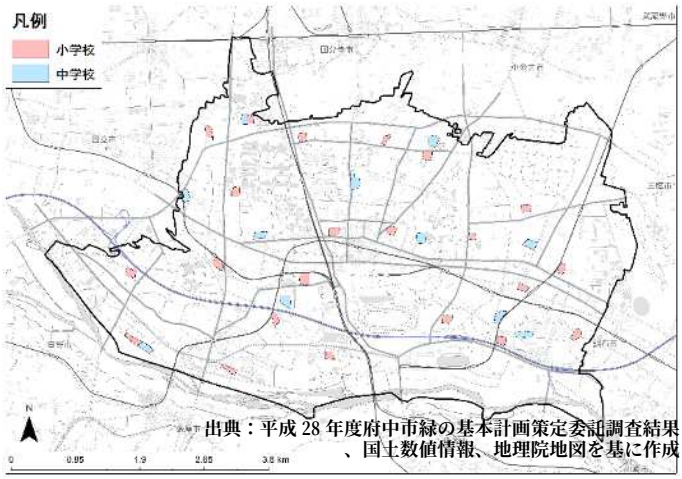
浅間山自然保護会の活動の様子

府中かんきょう市民の会の「田んぼの学校」

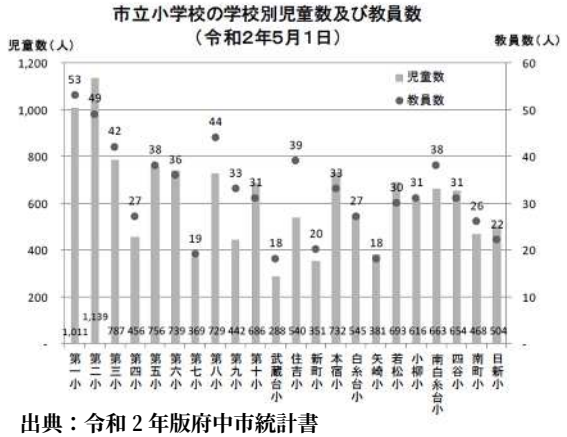
府中かんきょう塾の活動の様子

16.小・中学校

概要	生物多様性における肯定的側面	生物多様性における課題
市立小学校 22 校 児童数 13,549 名 市立中学校 11 校 児童数 5,783 名 （ほか、私立小学校 2 校、私立中学校 1 校） 平成 28 年度から 29 年度にかけて東京農工大学の協力により市内 27 校の敷地内の植生調査を行った結果、565 種（うちの 316 種が在来種）の植物が確認された。	都内でも児童数は比較的多く、環境教育の充実などにより将来を担う児童の育成が期待される。 府中市全域で記録されている在来性の植物の約半数が学校敷地内で生育していることが確認され、都市部における植物の避難地として機能していることが判明した。 これらの植物を教育素材としての活用した環境教育の展開も可能である。	外部講師の招へいなどにより、児童が生物多様性の意義を分かりやすく実感を持って学ぶ環境教育の機会の充実が望まれるが、学校によって取組には温度差がある。 現状では学校施設において校内の植生に着目した管理は行われておらず、またそれを実施する体制も整っていない。児童の安全管理や教育環境の整備が管理上優先される中で、校内の植生の保全や利用についてどのように施策に反映していくか課題が残る。



小・中学校位置図

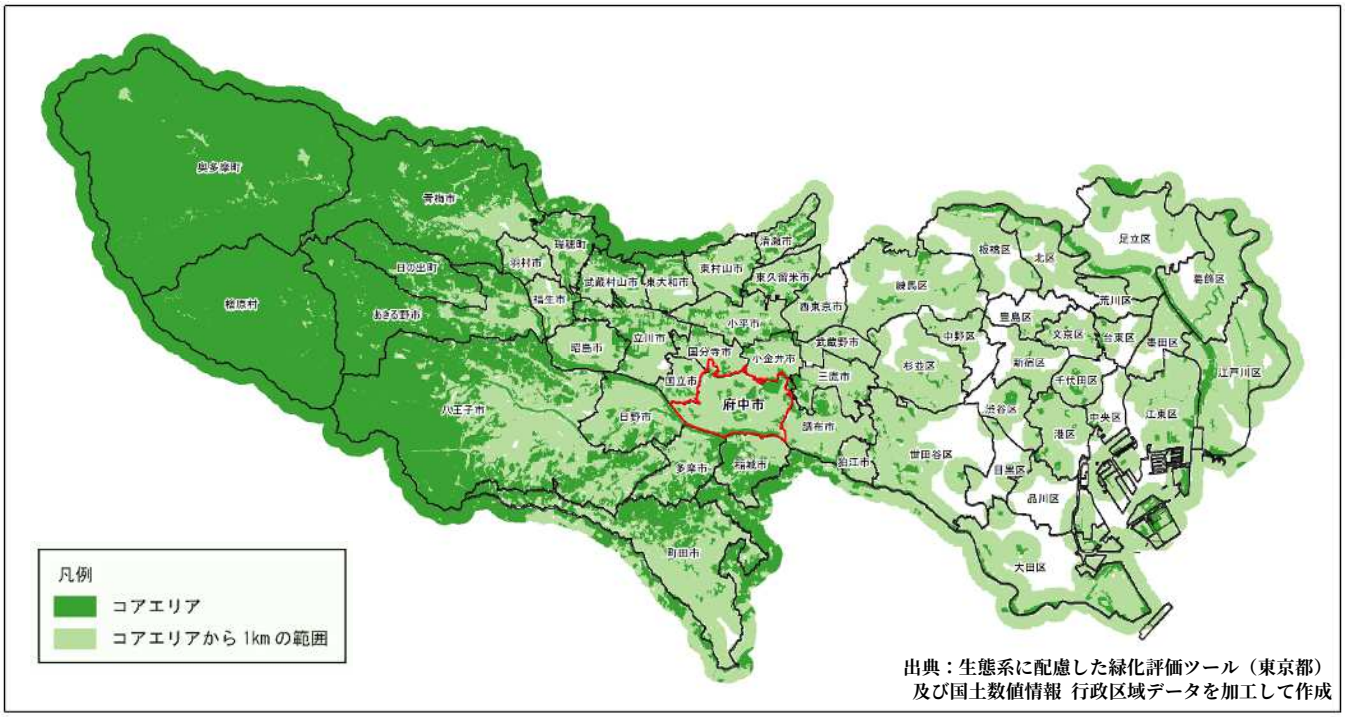


出典：令和 2 年版府中市統計書

市立小学校の学校別児童数

17.周辺地域

概要	生物多様性における肯定的側面	生物多様性における課題
本市は 7 市と隣接しており、府中崖線や国分寺崖線、多摩川などを軸として、市境を超えた自然環境のつながりを有している。	周辺域にもまとまった緑地など自然豊かな環境が多く存在し、市内の環境も含めたエコロジカル・ネットワークを形成している。このネットワークを通じて多様な生物が相互に生息環境を拡げることに寄与していると考えられる。	複数の自治体にまたがる自然環境が多いが、現状他自治体等との生物多様性保全のための連携した取組は進んでいない。 質の高いエコロジカル・ネットワークを形成し、生物多様性を保全するためには、周辺自治体や関係機関が密に連携した取組が必要であり、そのための広域的な連携体制の構築が課題である。



出典：生態系に配慮した緑化評価ツール（東京都）
及び国土数値情報 行政区域データを加工して作成

府中市の位置図